

SOSの受け止め方① SC 福嶋 和宏

SOSを出す力はSOSを受け止める力によって育つ  
 最近「SOSの出し方教育」という言葉をよく聞くようになりました。

いじめや自傷、自死などの重大な問題は、大人が気付かないうちに進行し、ある時突然に露呈、発生しうるものです。そのようなことを防ぎたい、みんなそう思っていますよね。だから、子どもには困ったときには助けを求めてほしい、そのような思いから「SOSの出し方」というものを伝えようとしているのでしょうか。しかし、困った気持ちでいるのにSOSを出せない場合が多くあります。なぜそうなるのでしょうか？

確かに、自分のことを自分で守ろうという姿勢、助けを求めるという発想、勇気など、「SOSを出す力」も必要なことではあります。では、子どもたちがそのSOSを出す力をつけるためにはどうすればいいのでしょうか？

最も大切なことは、大人が子どものSOSを受け止めることができていることだと思っています。

これから「SOSの受け止め方」ということについて、以下の小さなテーマについて共に考えていきたいと思います。

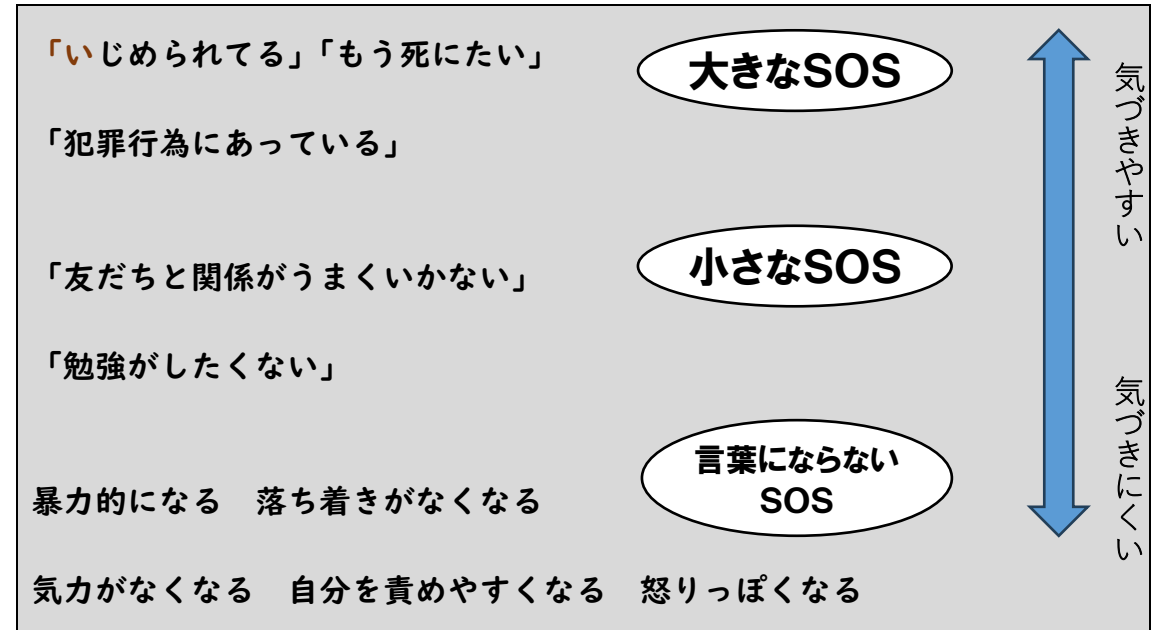
- テーマ1 子どものSOSとは具体的にどのようなものが考えられますか？
- テーマ2 SOSが出せない(出せる)子は、なぜ出せない(出せる)のでしょうか？
- テーマ3 SOSを受け止める(受け止めない)とはどういうことだと思いますか？  
 また、SOSを受け止めるためにどんなことが必要でしょう？
- ワーク 子どもの気持ちを受け止めるシミュレーション

テーマ1

子どものSOSとは具体的にどのようなものが考えられますか？

.....

先ほど挙げた「いじめられてる」「もう死にたい」などのことはSOSとしてすぐに思い浮かぶのではないのでしょうか？しかし、それはSOSの中でも「大きなSOS」に当たると思います。その他に思い浮かんだことはありますか？



このように、「大きなSOS」の前に「小さなSOS」そして「言葉にならないSOS」が考えられます。「大きなSOS」を受け止めるためには「小さなSOS」「言葉にならないSOS」を受け止めることが必要だと思います。しかし、これらは「SOSである」と気づきにくいものでもあります。

今みなさんは「小さなSOS」そして「言葉にならないSOS」にどれだけ気づき、受け止めることができているのでしょうか？

次回は **テーマ2** SOSが出せない(出せる)子は、なぜ出せない(出せる)のでしょうか？ について考えてみたいと思います。